［認知症対応型共同生活介護用］

1. 調査報告概要表

作成日　2007年12月5日

【評価実施概要】

事業所番号	2610104776
法人名	医療法人　社団都会
事業所名	グループホームほっこり庵
所在地	〒603-8401　京都市北区大宮上ノ岸町6-6 （電　話）075-493-4801

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会
所在地	京都市下京区西木屋町上ノ口上る梅湊町83－1　ひと・まち交流館 京都1階
訪問調査日	平成19年9月20日

【情報提供票より】（　平成19年7月25日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　14　年　3　月　21　日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	25　人	常勤　14 人，非常勤　10 人，常勤換算　人

（2）建物概要

建物構造	木造
	2 階建ての　1 階～　2 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	50000円		その他の経費（月額）	円
敷　金	○　有（30万円）　／　無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） ○　無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	400　円	昼食	500　円
	夕食	800　円	おやつ	300　円
	2000円			

（4）利用者の概要（　7　月　25　日現在）

利用者人数		18 名	男性	3 名	女性　15 名
要介護1		0　名	要介護2	4　名	
要介護3		5　名	要介護4	4　名	
要介護5		5　名	要支援2	0　名	
年齢	平均	88 歳	最低	79 歳	最高　93 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	渡辺西賀茂診療所、渡辺医院、京都地域医療学際研究所、柴田歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

京都市北部の賀茂川べりの住宅街にあり、新築2階建ての建物はあたりの風景に違和感なくとけこんでいる。玄関前には木が植えられ、花の鉢や竹の床机、手水鉢等がおかれ、非常に京都らしい構えとなっている。真ん中に居間兼食堂があり、周りに配されている居室の窓辺にはカーテン、植木鉢、ぬいぐるみ等がおかれ、家庭的である。地域住民や近くの商店街、学校等の理解は得られており、行事等の交流もさかんである。介護計画が詳細に立てられており、食事、入浴、排泄、外出、生活の楽しみ等の毎日の介護はよくおこなわれている。研修には積極的に参加しており、有資格の職員が多い。利用者一人ひとりの毎日の生活をどのようにつくっていくかという、大規模施設ではないグループホームのケアには、机上の学習だけではない生活体験が強く求められるので、こういった問題意識とともにより一層のレベルアップが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前2回の評価で指摘された地域住民との交流の促進は十分改善されている。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

今回の自己評価については、職員に意見をもとめ、まとめている。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

家族、町内会長、商店街理事長、地域包括支援センター職員のメンバーによって立ち上げられ、2カ月に1回会議が開催されている。グループホームからの報告により、家族や地域住民からの積極的な意見が出されている。地域の行事に参加してはという意見にたいして対応しており、散歩することによって地域には顔見知りになってもらっており、地域の理解が進んでいることが実感できている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

年2回の家族会や行事に招待して家族が来訪した時、日常的な家族の面会時などにはじっくりとコミュニケーションをとり、信頼関係を築くことを心がけている。運営推進会議において、避難訓練を見学させてほしいとか、家族の連絡網を作成してはどうか等、家族から積極的な意見がだされている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

町内会に加入し、地蔵盆や学区運動会等の行事に参加している。近くの商店街のお祭りにも積極的に参加している。ほっこり庵で開催したもちつきやクリスマス会などには地域住民が参加と手伝いをしてくれた。中学生のチャレンジ体験を受け入れている。近くにもっている研修センターは地域住民の集会、勉強会等の会場に貸しており、社会貢献ができている。

2. 調 査 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	パンフレットにつけて配布される資料に、理念として「入居者の三側面（精神的・身体的・社会面）をしっかりと把握し、入居までの生活歴を尊重した援助を行う」と記載されており、それを5点の重点項目にして説明している。また別のところには「ゆっくり・一緒に・楽しく」という言葉も書かれている。グループホームの意義を踏まえた事業所独自の理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	上記の理念にはさまざまな要素を盛り込んでおり、グループホーム内の会議において話し合われているが、全職員の共有化には少し不十分である。	○	理念は毎日の業務の核となるものであり、利用者、家族、地域住民、職員等にとってわかりやすく、簡潔に表現されたものが望まれる。職員の話し合いにより、毎日の仕事の拠って立つところとして、さらに検討することが求められる。
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地蔵盆や学区運動会などの行事に参加している。近くの商店街のお祭りにも積極的に参加している。ほっこり庵で開催しているもちつきやクリスマス会等には地域住民が参加と手伝いをしてくれている。中学生のチャレンジ体験を受け入れている。近くにもっている研修センターは地域住民の集会、勉強会等の会場に貸しており、社会貢献ができている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価に関しては、職員の意見を集約してまとめている。前2回の評価で指摘された地域住民との交流の促進は十分改善されている。入浴時間の設定と昼食後の口腔ケアの実施についてはさらに工夫が期待される。	○	評価の意義を職員全員が認識することが望まれる。自己評価に関しても、自分の仕事の自己診断と同時に、全体の評価について、職員一人ひとりが考え、検討することが期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、町内会長、商店街理事長、地域包括支援センター職員のメンバーによって立ち上げられ、2カ月に1回会議が開催されている。グループホームからの報告により、家族や地域住民からの積極的な意見が出されている。地域の行事に参加してはという意見にたいして適切に対応しており、散歩することによって顔見知りになってもらっており、地域の理解が進んでいることが実感できる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村から何か要請があれば協力する意思があるが、在宅で認知症の家族を介護している人への介護相談や地域住民への認知症啓発等の共催事業はまだおこなわれていない。	○	地域に根付いたグループホームとして、地域住民への理解も進んでおり、市町村に働きかけることによって、介護教室や認知症啓発の共催事業に取り組むことが望まれる。
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月写真がいっぱいの読みやすい『ほっこり庵通信』を発行し、預かり金の残高報告とともに家族に郵送している。通信には、利用者のお誕生日、行事の様子、職員異動等の報告が書かれている。個人情報の同意をとっており、地域にも回覧している。利用者の写真はアルバムにし、家族が面会に来たときに見てもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会や行事に招待して家族が来訪した時、日常的な家族の面会時等にはじっくりとコミュニケーションをとり、信頼関係を築くことを心がけている。家族から苦情がないので、アンケートをとってみようと計画しているので、その結果の対応が期待される。。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内異動は多数が同時期に動くことがないように配慮している。またシフトや連休が公平になるように配慮することによって退職を防ぐ工夫をしている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は全国認知症グループホーム大会をはじめとして、全国的な大会に職員が交代で積極的に参加しており、レポートは作成され、伝達研修もなされている。法人内研修も毎月行われている。いずれもテーマは認知症、感染症、リハビリテーション、接遇、褥瘡対策等、網羅されている。年2回の管理者との面接により、職員一人ひとりの課題が設定されている。資格取得にも支援されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都府グループホーム協議会に加入し、研修や交流をおこなっている。さらに利用者をともなって、職員が気軽に他のグループホームと交流することも期待される。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学は受け付けているが、試し利用の制度はない。同法人のデイサービスを利用しながら待機している利用者には利用開始前から会って、職員が顔なじみになるように、話をしている。利用が始まってからは1人の担当職員がずっとついて、なるべく早くなじみになってもらうように工夫している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として接しており、家事や縫い物、礼儀や生活のなかの節約等について学ぶことも多い。職員の服のボタンがとれいているのに気がついてつけてもらったり、電気がつけっぱなしで勿体ないと言われたり、「ら」抜きの若者言葉を叱られたりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用申込があると面接をし、バックグラウンドアセスメントシートに情報が記録されている。家族構成、生活歴、使っていたサービス情報、医療情報、グループホームでの生活にたいする希望等が聴取されている。今後東京センター方式のアセスメントに挑戦することになっており、生活歴等の情報がさらに充実することが期待される。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	担当職員と計画作成担当者がアセスメントし、介護計画案をたて、職員会議で検討し、家族に説明し同意を得たものを確定介護計画としている。できないことではなく、できることに注目し、それに基づいた介護計画が立てられており、生活のなかの楽しみの面も積極的に取り上げて介護計画にあげている。介護計画は現場での職員の介護行動に対応するため、項目ごとに詳細な内容が書かれており、優れた介護計画になっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には3～6カ月ごとに、また状態変化に応じて介護計画を見直している。見直しにあたってはカンファレンス会議をおこない、アセスメント→評価→新しい介護計画の作成となる。「日々の生活記録」は介護計画に沿った内容は少ない。またカンファレンス会議の内容は身体状況や医療状況の検討が多い。	○	介護計画の見直しにあたっておこなわれるカンファレンス会議では、利用者のアセスメントとともに、介護計画の評価の検討が欠かせない。その根拠となるのは「日々の生活記録」である。ここには利用者の行動にとどまらず、そのときの表情や発言、介護にあたる職員の思いや分析を書くことが求められる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートの利用には応じている。かかりつけ医の受診同行や往診の受け入れもおこなっている。いきつけの美容院への同行もしている。高齢二人世帯の妻の面会にきた夫が夕食を食べて帰ったり、ときには宿泊することにも対応している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月曜日から土曜日まで医師の往診があり、その間に全利用者が診てもらっている。歯科医は家族が同行して受診したり、往診にこられる歯科医もいる。医療法人が開設しているグループホームなので、医療対応は十分であるが、利用者全員が歯科の受診ができるように期待される。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族の希望があればターミナルケアに応じる方針である。まず医師からの説明を家族と職員が聞き、その時の家族の意向を議事録に残している。その後職員会議で意思の共有化をし、連絡体制の確立と他の利用者への説明を行っている。不安はあるものの、職員は利用者の死を受け入れる心の準備をしている。すでに2人の看取りの実践をしているが、他の利用者が励ましたり、手を握ったり、お経をあげたり、千羽鶴を折ったり等のかかわりがあり、感動的な場面を経験している。これからも「ほっこり庵だからこそできる看取り」を目指している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護規定は策定されており、職員の誓約書をとっている。くらしのなかのプライバシーには注意しているが、トイレを開けっ放しにする利用者がいるので、とくに注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の日課はあるが、起床も就寝も自由である。朝食は8時だが、10時までなら残しておき、あとで食べることもできる。昼夜逆転や生活のけじめなどは、あまり重視していない。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は職員が朝買いに行き、献立は臨機応変にたてている。朝はパンかごはんの希望に応じている。夕食は週に5日はご飯と味噌汁をつくり、主菜は近くの仕出し屋から取っている。鍋料理や焼きそば、お好み焼き等をすることもある。外食は昼食時にしている。誕生日には希望を聞いて好きなものを手作りしている。お盆くらいの大きさのおはぎをつくり、金屏風の前において提供したこともある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回は入浴できるようにしており、希望すれば毎日の入浴も対応している。マンツーマンで同性介助をしている。時にはしょうぶ湯なども楽しんでいる。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食卓やお盆を拭く、食器洗い、洗濯物たたみ、おしぼりつくり、ゴミの日にホーム内のゴミを集める、表の植木に水をやるついでに郵便受けのチェックをする等の役割を果たしている。工作や写経、歌、ギターを弾く、新聞を読む等の楽しみをそれぞれがおこなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には近くの賀茂川べり、商店街等に散歩や買い物にでかけている。ドライブの好きな人がいるので嵐山、金閣寺、御所等々にドライブに行く。昨年利用者から旅行に行きたいと希望が出たので、近江八幡に一泊旅行に出かけ、全員参加が実現している。利用者が喜んだことはもちろん、職員が24時間つきあうことによって、介護する人と介護される人ではなく、対等の関係に近づくことができた。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	道路からの門扉、玄関ドア、非常口、2階の非常階段への扉等、すべて施錠されていない。内部のエレベーターのロックもおこなわれていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時マニュアルを策定し、避難訓練を年2回おこなっている。備蓄や消防計画書、地域住民の協力協定書等はない。	○	非常災害時に地域住民やボランティア等が協力してくれるように、予め協定書を策定しておくことと防災グッズや水等の備蓄を備えることが求められる。2階からの非常階段はテラスに洗濯物干しが占拠しているので、洗濯物干しは別の場所を検討し、緊急の場合に備えてふだんから準備しておくことが望まれる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりについては、バイタル数値とともに、食事摂取量が記録され、水分摂取量については注意の必要な利用者のみ記録されている。カロリー値の記録はないが、毎月栄養士に栄養バランスとともにカロリー値についてもチェックしてもらっている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	道から玄関扉までに竹のベンチや手水鉢、花の植木鉢、じょうろなどがおかれており、家庭の玄関という風情である。ドアを開けるとバリアフリーで居間兼食堂となり、そのまわりに居室が配置されている。居間には雑誌やビデオの入った腰高の棚がおかれ、上には花や人形などが飾られている。利用者の描いた絵や書が壁に貼られている。琴やピアノ、オルガンがあり、畳敷きのスタッフコーナーがある。蒲の穂を挿したガラス器が置かれているのはおしゃれである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗面台とクローゼットが設置されており、テレビ、椅子、飾り台、たんす、仏壇等、利用者が使い慣れた家具や道具がもちこまれている。ぬいぐるみ、人形、家族の写真、寄せ書きの色紙等が飾られている。		